（別紙2）　　平成　29　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2590200198		
法人名	株式会社　関西サンガ		
事業所名	ひらたグループホーム翔裕館		
所在地	滋賀県彦根市平田町　448-1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2590200198-00&PrefCd=25&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPO法人　あい・ライフサポートシステムズ
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21
訪問調査日	平成30年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員が入居者の方が住んでいた地域のことがよく分かるメンバーで構成されているので、地域の行事や地元のニュースなど共通する話題が豊富で、安心感とぬくもりを感じていただけている。
複合施設ということで、入居前は同法人の介護保険サービスを利用されていた方も多く、顔なじみの職員がいることやアドバイスをもらえる環境にあり協力体制が整っている。
施設近隣は、季節を感じられる公園や田園が広がる自然豊かな場所であり、ドライブや外出にはもってこいです。又スーパー、飲食店といった場所にも恵まれている為、外食や散歩がてらの買い物も楽しみの一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

開設三年を迎えるホームで、地域密着型特定施設、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型デイサービスなどを提供する複合施設になっています。防災訓練やイベントなどは事業所合同で行い、職員間だけでなく利用者同士の交流も図られています。近隣に飲食店、喫茶店、スーパーマーケット、ドラッグストアなどが多数あり、恵まれた立地です。
事業所の年間目標と月間目標をフロアに掲げ、常に目標を意識して生活できるように取り組んでいます。
事業所単体での運営推進会議を行うのではなく、複合施設としての実施としているため、他事業所の運営状況なども把握することができ、交流を促進していると思われます。献立や食材の配達は委託としていますが、調理を行う職員は、見た目への配慮を行ったり、行事食を充実させることで、食べる楽しみを充実させています。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体朝礼にて「基本理念」「基本方針」「品質方針」を唱和し関西サンガの目指す「感動介護」の実践を行っていくことを基に、毎月の目標を設定しグループホーム独自でも個々に取り組みやすい内容で共通の目標を持ち安心とぬくもりのあるケアに取り組んでいます。	法人理念「感動介護」を掲示し、毎朝唱和するとともに、職員で話し合い決めた事業所独自の年間目標・月間目標をフロアに掲示し実践に繋げています。また入居者だけにとどまらず職員も感動できるよう一人ひとりに合わせた個別ケアに取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、事業所の広報誌を配布し行事や生活の様子をお知らせしている。地域の避難訓練などに、事業所の代表者が参加したり、文化祭で入居者の作品展示する機会があり今後は事業所に訪問して頂けるような取り組みを行っていきたい。	町内会に加入してはいるものの一軒家ではない事で回覧板が来ないという難点はあるものの、運営推進会議で地域の情報を収集し、地域の老人クラブ連合会のお祭りや文化祭、地域の防災訓練等への参加を積極的に行っています。町の文化祭では出展スペースもあり、入居者の作品展示も行っています。	地域交流スペースを確保していますが、利用頻度が少なく、活発な活動にまでは至っていないと思われます。事業所主催のイベントへの招待や、スペースの利用促進広報などを行ってみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を代表して副施設長が定期的に自治会の研修会にて地域のかた向けの認知症講座（日頃関わっている現場より）説明や指導を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回、入居者に参加してもらい、会議を開催しています。事業所からは利用の状況や取り組みの報告を行い、アドバイスを受け運営に活かしている。施設の催しや地域の行事についても交流できるように意見交換を行っている。	包括職員、民生委員、老人クラブ連合会会長を招き、奇数月の最終木曜日の日中を開催日とし、併設の特定施設、小規模多機能、認知症デイと合同での実施をしています。地域の情報、他事業所の取り組み、運営状況の報告を行い、意見交換やアドバイスをもらっています。	開催が平日の日中という事もあり、参加者が固定されてきているようです。家族が参加しやすいよう、開催日時を工夫されることが望まれます。また、地域交流という観点からも幼稚園や小学校などへの参加要請を行ってみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員にも参加していただき意見交換、助言をいただき運営に活かしている。他の事業所の良い取り組みなど情報を頂いたり又些細な相談もしやすい関係が築けている。	運営推進会議の議事録は手渡しをしており、その際近況報告や助言をもらっています。行政主催の地域包括ケア会議や事業者連絡会、医療連携交流会などへも積極的に参加し、情報収集に努めています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除については繰り返し研修を行っている内容のひとつです。尊厳を損なう行為と認識し、如何なる場合もしないことを前提に日々のケアに取り組んでいる。研修に関しては職員全員に参加してもらうために、研修日を2日設けている。	年間研修計画に基づき、内部研修の実施及び外部研修への参加を行っています。事業所内では伝達研修を行い、職員への周知を図っています。身体拘束排除、虐待防止マニュアルを定め、特にスピーチロックに特化した研修を行うなど、実践につながる具体的な取り組みを行っています。夜勤帯に管理者が抜き打ちチェックをするなどの取り組みも行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を行い、虐待防止に努めている。職員が不安なく業務できるように、入居者との関係性やケアに関して、相談しやすい雰囲気を意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を実地し、全職員に周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時には重要事項説明書により十分説明を行い、不明な点がないか確認のうえ契約を行っている。介護保険法改正にて料金改定や負担割りの説明等必要時には文書にて家族に通知し説明し、理解を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者家族の面会は比較的多く、気軽に意見交換を行うことができている。ご家族様の不安や心配を軽減できるように声をかけるようにしている。意見箱設置している。	意見箱は設置しているものの活用されるまでには至っていないようです。家族の面会機会が多く、来訪時に声掛けを行い、さりげなく意見や要望を聞くように努めています。居室担当を決めたことで、より親密な関係が作れていることがうかがえます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議では職員の意見を聞いて、業務の内容や統一したケアができるように検討している。管理者との面談以外に施設長、管理者と3者での面談を行い、職員意見を聞く場がある。	月一回のグループホーム会議で、運営やケアの方法、勤務要望などを聞き取っています。また会議の場だけでなく、年に2回ほどの個別面談の機会を設け、意見の言いやすい環境を整えています。職員意見により劇的に身体機能の向上が図れた入居者もいます。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施している。（一般職・管理職）面談を通じて個々のスキルアップを協議し今後の目標を設定する機会にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員がスキルアップを図れるように、研修への参加を推進している。又、資格取得に向けた情報提供も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内のグループホーム部会が毎月1回あり、本社にて集まる機会があり、情報交換を行っている。彦愛犬グループホーム部会での意見交換や交流会に参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	身体的、精神的な不安、心配を介護記録に残し共有している。担当を決め細やかなところまで気付きができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人、ご家族様の面談では、不安や思いを十分にお聞きし、グループホームでの生活を理解していただけるようにじっくり時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が介護支援相談員という特性を生かし、ニーズを明らかにして、必要なサービスの提案やサービスの紹介等様々な方向から本人らしい生活ができるよう助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気で、共に楽しめ笑い合える関係を大切している。生活の様子をお便りにして発行している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況を報告させていただき、ご家族様の思いをお聞きできるよう雰囲気づくりをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から通われていた馴染みの医院や散髪に続けて通っている方も居られる。家族面会や親戚、知人の面会もあり、居室や共用スペースでゆっくりと時間を取っていただくようにしている。入居者家族がボランティアとして定期的に訪問してくださる事もある。（オカリナ、ハーモニカ、習字、お坊さんの説法、子供とのふれあい）	親類の面会時には居室でもゆったりと過ごしてもらえるよう配慮をしています。馴染みの理髪店へ通ったり、コーヒー好きの方には近くの喫茶店へ外出を行うなど、一人ひとりの習慣が継続できるよう支援しています。家族協力のもと、受診帰りに自宅での食事や外食機会も作っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を見守りながら、時には職員が間に入り話を取り持つことで、良好な関係が継続するように支援している。テーブル配置にも気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状、他の施設に移られたりということはないが、近隣の入居者様が多く、退居の後、家族が施設に訪問されたりということはある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なかなか思いを話す方は少ないが、入居者が話しやすいように入浴時や居室1対1で思いや暮らし方について聞き取るようにしている。思いが聞き出せない場合は家族に情報を得て、本人らしさに近づけるよう心がけている。	自身の思いや意向が伝えられない方には、家族から情報を得て、その方の気持ちを汲み取るようにしています。入浴支援時は特に良い機会になっており、思い出話などから本人の事を知り、個別支援につなげるようにしています。	新たに知り得た情報などは申し送り書や介護記録への記載により情報共有を行っていますが、その情報がまとめられたものまでには至っていません。センター方式の書式を活用するなど、一人ひとりの情報を一目で見られるような取り組みをされてはいかがでしょうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活スタイル、愛着のあるものをそのまま持ってきていただくよう依頼し、継続性のある生活を心がけている。本人の体調やペースに合わせて生活している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自己決定、自己実現の視点に立った支援を心がけている。買い物や外出、散髪等の希望に添うように実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの目標設定に合わせてケース検討会モニタリングを行っている。状況に大きな変化があった際には、その都度開催している。介護量が増えるとき、サービス内容が変更した際には勿論ですが、良くなられたことや、出来ることが増えたときにもモニタリングにて共有している	3ヶ月毎の見直しを基本とし、状態に変化が見られた際にはその都度見直しをしています。見直しの際は、本人や家族の意向確認を行い、職員の意見、毎月の往診時に医師からの意見を聴き、計画の作成を行っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録に関してはできるたけ詳しく、その前後の様子まで記録に残すように周知している。職員間の情報の共有、ケアの実践に活かせている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに出来る限り合わせている。受診や散髪等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や買い物、食事、喫茶店等、地域に出ていく機会を大切にしている。家族の協力で法事に出かけたり、外食されたりということもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向に任せている。協力体制は常にさせていただいている。（緊急時の受診付き添い・日々の様子連絡） 往診対応も可能	協力医療機関との連携体制などを説明した上で、かかりつけ医の継続は家族判断に委ねています。緊急時の搬送先などは事前に希望を聞いており、医療機関への情報提供もスムーズに行えています。インフルエンザの予防接種を協力医療機関で行うなどフレキシブルに対応し、適切な医療提供に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と連携をとり、日々入居者の健康状態や変化を報告して、体調不良時の早期発見に努めている。複合施設をいかした柔軟な対応もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはアセスメント兼医療連携シートを渡し連携を図る。退院時には退院カンファレンスに参加しサマリーを依頼する。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	同法人には10年以上運営されているグループホームがあり、部会において、看取りの事例発表や、それを踏まえた研修を行い。それを持ち帰り、ミーティングにて伝達研修にて周知している。脳梗塞発症された方に関して延命についてなど家人と主治医を交えて話すことがあった。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、家族に説明を行い同意を得ています。現在までホームでの看取り経験はなく、地域のグループホーム部会での勉強会への参加や、看取り経験のある同法人のホームの事例検討会に参加するなど、その日に備えた活動を行っています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを設置、事務所に対応の手順を掲示している。施設内部研修において緊急時の対応についての研修を行い参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導のもと年2回の消防訓練を行う。隣接する昭和元気くらぶの建物に食料・飲料水等の備蓄が整い、自家発電が可能な為、IH電気器具で非常時にも調理がでる。緊急時には、消防署と施設長に一報が届くようになっている。また、同法人の施設は夜間常時5名体制になっており協力出来る体制にある。	隣接建屋の事業所と協力し、年に2回～3回の消防訓練を行い、消防署の協力を得ています。発電設備や飲料の災害支援自販機を設置し、また食品類も3日程度の備蓄を行い、有事への備えを行っています。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関して、職員間で暗号等を取り決め、他の入居者に気づかれない工夫をしています。プライバシーに関する研修を行い、自分に置き換えて考えるよう日々指導している。	年間研修計画に基づき個人の尊厳やプライバシー確保の研修を実施しています。排泄の誘導時は独自の暗号をもとに一人ひとりに合わせた声掛けを行っています。居室での排泄ケアも居室に入ってから準備するなど、配慮ある対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	趣味や嗜好を考慮し言葉かけすることで思いや希望に近づけるように対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはありますがご本人の体調に合わせて支援を行っている。日々の生活で希望があまり無い状況ですと生活歴よりくみとり、出来る事をサポートし職員が実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類交換支援をさせていただいている。ご本人が選んでいるわけではありませんが、好みの服を着用されています。ご家族様が要望される方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでもらうよう工夫することは、年間目標にもあげている。食べるだけでなく、見た目や器、適温での提供など工夫するほか、季節に合わせた食事や行事食にもこだわっている。職員も一緒にテーブルを囲み音楽を流してゆったりと食事をしている。	朝食は好みに合わせてパン食、ご飯食を提供しています。昼夕食は献立に沿った食材が配達され、職員が調理をしています。下処理などできる事を協力してもらい、毎月の行事食では入居者と一緒に調理をしたり、外食を行うなど、食べる事への楽しみを演出しています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食品食材全般は宅配業者に依頼し、高齢者の栄養バランス、カロリー計算されたものを手作りしている。摂取量、水分量の確認、記録、体調管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態を把握した上で、その人に合わせた口腔ケア用品を使用し、起床時、毎食後の口腔ケアの促しと介助を行っている。歯科受診にて口腔ケア指導を受ける。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁、失便を減らし、不快の無い排泄への促し、誘導を行っている。個別の排便コントロールにて下剤服用者の状態観察にて、不快感の軽減を図っている。又薬にたよらず排便できるように飲み物の工夫や温め、マッサージ行う。	日中のおむつ利用の方は一人のみで、リハビリパンツ等で一人ひとりのサインを見逃さないようにし、尿意、便意のない方もトイレ誘導を行っています。下剤での排便コントロールはできるだけせず、ヨーグルト、牛乳などの提供により自然排便できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために、1日の水分摂取の促し。好みの飲み物で摂取量を把握している。程度な運動も取り入れるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、入居者がゆったり寛げる時間として、特に重視しています。柚子湯や温泉のもとなど変わり湯で楽しんでもらうこともある。又日頃あまり話されない方には、1対1の良いコミュニケーションの場として対応しています。	同性介助を希望される方には希望に沿い、週2回を基本とした入浴支援を行っています。毎日入浴を希望される方や、夕方を希望される方への対応も行っており、冷え性の方への足浴、シャワー浴への切り替えなど、臨機応変に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態と日中の様子を観察し、状態を見ながら、休息の声かけと促しをさせていただいている。リクライニンを使用し見守りながら休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容の把握を行い、看護師の指示のもと介助に入っている。日々誤薬の無いように、声だし確認、他の職員に確認をしてもらい服薬介助にあたっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望に添った役割、楽しみを企画している。気分転換していただくように近隣の喫茶店にコーヒーを飲みに出かける機会も多い。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じられる外出、ドライブ、外食、散歩、娯楽、買い物等その日の天候に合わせて実施している。誕生日には個別で本人と相談し好みの場所に外食することもある。	季節柄外出を控える時期はありますが、調味料の買い出しや喫茶店への外出を行っています。外出が困難な方も敷地内の駐車場や花壇へ出かけ、できる限り外の空気を感じてもらえるよう支援をしています。近所への散歩も日常的に行い、ご近所付き合いを行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金の管理をされている方は居られず、家族が買ってこられたり、希望にて買い物支援させていただいてます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にて何時でも電話を取り次いでいます。お手紙のやり取りもされてます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからフロアが見渡せ、中心にフロアがあるので、何時も職員の顔が見える関係がつくれている。毎月、季節感のある壁面を入居者様と作成し飾り付けている。季節の花を飾ることもある。	事務所内は昼光色、フロアや居室は電球色を使用し、明るさへの配慮がうかがわれます。季節の花や入居者の作品を飾るなど、季節に応じたフロア演出も行い、心地よい空間となっています。	広々としたホールになっており、工夫によっては更に居心地の良い場になると思われます。ソファーや畳コーナーなど検討されてはいかがでしょうか。また、加湿器は設置されてはいますが、全体的に湿度が低く季節によっては感染症への対策が必要だと思われます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士は確立してるように見えます。その中でも職員が間に入り、話を取り持つこともあります。一人になりたいときにはリクライニングチェアーや一人がけの椅子に行かれる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、カーテン、クーラー以外は、ご本人が慣れ親しんだ家具や寝具にて環境整備させてもらってます。テレビ、ラジオも自由に使用されておられます。	入居前には家庭訪問を行い、居室への馴染みの品などの持ち込みを依頼しています。一人用の椅子を持ち込んだり、思い出の写真を飾るなど、居心地の良い居室になるよう支援しています。居室での一人の生活をより大切にされる方へは居室に加湿器を設置するなどの取り組みも行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアー、廊下の手すりの設置、必要な福祉用具を使用され動きやすい動線ができています。ゆっくりと過ごせるスペースもあり、トイレも分かりやすく張り紙をしています。		